

【資料3】

2022年度全関西女子学生バスケットボール選手権大会の観客入場の取り扱いについて

2022.4.2 理事会

<原則>

- ・無観客とする。有料入場日は設けない。大会パンフレットに会場を掲載しない。
- ・ただしこの2年間、リーグ戦を含めて不開催や規模縮小、無観客を余儀なくされてきたことから、日頃から選手を支えておられる父母等に限定して、借用する体育館の事情と学連としての対応が整えば、可能な範囲で緩和措置をとることとする。
- ・緩和措置は、学連内の措置とし、対外的には公表しない。
- ・措置する場合は、関係するチームに学連より直接、連絡する。なお、入館は各チームの責任で管理できることを条件とし、それが整わないチームは認めない。

<緩和措置>

- ・2021年度は大会エントリー選手・スタッフ+スカウティング要員のみとしてきたが、今大会は、当該チームの学連の登録証をもつ選手・スタッフについて入場可能とする。登録証をもつ選手は登録証を提示し、所定の健康管理シートの提出、検温を経て入場を認める。
- ・父母等の入場が可能な会場は、「登録選手数×2（父母を想定）」を上限に、事前に当該部より名簿の提出があった父母等について、健康管理シートの提出を条件に観戦を了解する（父母+妹などは可。家族限定。上限の範囲で各チームでコントロールしてもらう）。
- ・要領としては、①各部は試合前日までに、入館者名簿を学連に提出する。②各部においては、事前に健康管理シートを父母に配布し、記入して持参していただく、③各部より父母入館チェックのための運営補助員を出し、自大学の父母は各チームで入館チェックを行う（名簿チェック、健康管理シートの提出、検温、入館許可証を配布）。
- ・父母等の入館は当該試合開始30分前から、その試合終了までとする。試合終了後、運営補助員が、入館許可証を回収し、その枚数分を確認して学連に返納する（運営補助員が出せないチームは父母等の入館を認めない）。
- ・入場者には、感染防止対策を記したペーパー+協力金の要請を行い、入館許可証交付の際に、運営補助員が感染防止対策協力金として1人500円を徴収する。運営補助員が取りまとめて、学連に入館者数に渡す（お釣りの管理なども含めて各チームで行う）。
- ・アナウンスにて、当該試合が終了すれば、退館するように促す。

<結論> (4/1現在→感染拡大の状況により急遽変更がある)

以下のとおりとする。学連の体制上、一部制限を設けるところがある。

- ① 2021年度と同様、エントリー選手+スタッフ、スカウティング要員のみとする体育館
・なし
- ② ①に加えて、登録証を有する選手全員の入館を認める体育館>
 - ・武庫川女子大学、京都先端、奈良学園、流通科学、大阪大谷（4/16以外）
- ③ ②に加えて、父母等まで入館を認める（登録証を有する選手数×2を上限）体育館>
 - ・天理大学、ベイコム、ラクタブ、神戸親和、大阪大谷（4/16のみ）

(以上)